

みやぎ街道交流会令和6年度定期総会が開催されましたので報告します。

■ 日時・開催会場

令和6年7月6日(土) 13:30~14:30 青葉区中央市民センター セミナールーム(2)B

■ 参加者数

定期総会 参加者：23名

■ 次 第

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 議長指名
4. 議 事



総会の様子

- 1) 第1号議案 令和5年度事業報告
- 2) 第2号議案 令和5年度決算報告
- 3) 第3号議案 令和6年度事業計画(案)
- 4) 第4号議案 令和6年度収支計画(案)
5. 閉 会

開会のあいさつ / 会長 白鳥 良一

令和6年度定期総会にあたりひと言ご挨拶申し上げます。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行となり、街道交流会の事業もようやくコロナ前の状況に戻りつつあります。

私も昨年度は、この会主催の総会や記念講演会、奥州街道三宿サミットとして七北田宿で開かれた三宿交流連携フォーラムおよび七北田宿・吉岡宿の探訪会、このほか仙台湾運河群歴史協議会の総会や講演会および野蒜研修会など多くの活動に参加することができ、久しぶりに街道や運河をめぐる熱い思いを皆さんと共有することができました。

この会の事業として3月に開催した「ひかり拓本の技術と活用」の講演会では、アプリの開発者である奈良文化財研究所上相英之研究員自身によるとても丁寧でわかりやすいお話と技術指導、東北大学災害国際研究所の蝦名裕一准教授による「ひかり拓本の活用事例」の報告があり、いずれも参加者からは大変好評でした。あいにくの雨模様で、榴ヶ岡のみやぎNPOプラザ敷地にある石碑のひかり拓本実技演習では十分な時間が取れず、残念ながらやや物足りない幕切れになってしまいましたが、今年度にその続きの研修会のようなものを計画してはどうかという声も出ていますので、前回参加できなかった皆さんも含めてどうかご期待願います。

この後、事務局のほうから昨年度の事業と決算の報告、今年度の事業計画と収支計画などについての提案がありますので、ご審議の程よろしくお願いたします。また、総会後には蛸名裕一さんによる講演、そして街道談議とフルコースの楽しみがありますので、こちらもどうぞよろしくお願いたします。



みやぎ街道交流会

題字揮毫
高倉 淳初代会長

みやぎ
街 道
交 流 会
ニ ュ ー ス
第 4 5 号

2024.8.1発行

【今回号の目次】

- 令和6年度総会 報告
 - ・ 会長あいさつ P1~3
 - ・ 総会議事要旨 P3~4
- 記念講演要旨 P4

開会あいさつの続き（多賀城碑の国宝指定について）

総会開会にあたっての挨拶は以上ですが、ここで皆様にご紹介させていただきたいことがありますので、少し時間をいただきます。

今年2024年は陸奥国の国府であった多賀城が創建されてから1,300年目という節目の年に当たります。古代に国府は全国に66国2島が置かれていましたが、そのほとんどは設置年代がわかっておりません。そのような中、多賀城が今年創建1,300年目であることがわかるのは、城内に建つ多賀城碑にこの城が神亀元年、西暦724年に大野東人が設置したことなどが刻まれていることによります。



多賀城碑（多賀城市ホームページより）

この碑は江戸時代初め頃に土中から発見されたもので、歌枕の壺碑として全国的に有名になり、徳川光圀が覆屋を建てて保護した方がよいと伊達綱村に進言したり、松尾芭蕉が『おくのほそ道』にこの碑をみて感涙したことを記したりしました。ところが明治に入ると、碑に対する真偽論争が起こり、文字の彫り方や碑文の内容などから碑は偽作とされるようになりました。

1969（昭和44）年に宮城県が設置した多賀城跡調査研究所により、発掘調査による多賀城跡の継続的な調査研究が進むにつれて、古代多賀城の実態が明らかになってきました。そして古代の文献には全く記載のない奈良時代中頃の多賀城大改修のことが多賀城碑に記されていることなどが判明したため、研究所の紀要において多賀城碑の偽作説についての全面的な再検討が行われました。

その結果、この碑は偽作などではなく、8世紀の多賀城および東北の歴史解明にとって欠くことのできない重要な資料であることが確認されました。こうした経緯で多賀城碑に刻まれた内容が事実とされるようになったことから、多賀城の創建年が確定し、今年創建1,300年を迎えることとなったのです。

多賀城跡調査研究所の研究成果にもとづき、1989（平成元）年に安倍辰夫・平川南編『多賀城碑—その謎を解く』という本が雄山閣から出版され、現在も多賀城碑に関する基本的な文献となっています。また、1997（平成9）～1998年には多賀城碑覆屋の解体修理に伴う碑地下部分の発掘調査が行われ、この碑が最初に建てられたのは10世紀中頃以前であることが考古学的に証明され、建てられて間もなく人為的に倒され、江戸時代に発見されて建て直されたと考えられるようになりました。これらの成果により、1998（平成10）年に多賀城碑は晴れて国の重要文化財に指定され、一級の歴史資料としてよみがえりました。因みに「古文書」としての指定で、世界で最も重くて大きな古文書になるのではないかと考えています。

重要文化財指定を契機として1999(平成11)年に『多賀城碑—その謎を解く』の増補版が出版されましたが、この増補版には平川南さんからの依頼で当時研究所の所長だった私が「第9章 多賀城碑地下部分の発掘調査」として新たに判明した発掘調査成果について追加執筆しております。

今年の3月15日、国の文化財審議会から重要文化財の多賀城碑を国宝に指定するよう文部科学大臣に答申がありました。宮城県教育委員会など37年間の勤務中延16年間もの間多賀城跡の発掘調査に従事し、多賀城碑にも関わった私にとっては、寝耳に水のととても嬉しいニュースでした。

『多賀城碑—その謎を解く』増補版への執筆を知る友人達からは「多賀城碑の国宝指定おめでとう」、「貴兄努力の賜物」などのメッセージをいただきました。国宝指定の決定を記念して、5月25日には『多賀城碑—その謎を解く』第3版が出版されていますので、興味のある方は是非ご一読いただければと思います。

多賀城碑の正式な国宝指定は秋になるとのことですが、11月には多賀城創建1,300年に合わせて建築が進む多賀城第Ⅱ期の外郭南門の復元工事が完成し、多賀城市による数々の記念行事が予定されています。

以上、挨拶に付け加えさせていただきました。

《 総会議事要旨 》

森田均事務局長代理の司会により開会され、冒頭に白鳥良一会長より挨拶がありました。内容は上記掲載) 議長に高橋幸三郎副会長が指名され、次のとおり議事が進行されました。

○第1号議案 令和5年度事業報告及び第2号議案 令和5年度決算報告 を一括審議

事業報告は宮川浩幸事務局長代理から説明があり、交流会事業として「奥州街道 七北田宿・富谷宿・吉岡宿三宿サミット」を開催し、三宿連携フォーラムと三宿それぞれの探訪会を7月から12月にかけて実施されたこと。講演会の開催事業として、「旧名取郡地域の『あづま街道』」と「ひかり拓本の技術と活用」などを実施したこと、地域づくりへの支援等の事業として、「芭蕉の道・案内人協議会」及び「仙台湾岸運河群の歴史と記録を伝える協議会」へ参画・支援したこと、その他に会員数や会員への連絡状況等の報告がありました。

続いて、日下さおり会計から決算報告、横山修司監査から監査報告がありました。

⇒審議の結果、異議はなく、承認されました。

○第3号議案 令和6年度事業計画(案)及び第4号議案 令和6年度収支計画(案) を一括審議

事業計画(案)は宮川事務局長代理、収支計画(案)は日下会計から説明がありました。その主な事業内容は、次のとおりです。

- 交流大会開催関係では、七北田・富谷・吉岡の三宿交流連携を目指し、吉岡宿でのサミット開催、各宿の探訪会の計画実施。
- 関係諸団体との交流関係では、「くりはら街道会議」事業などの活動支援やとうほく街道会議交流会との協働など。
- 地域づくり発展・支援関係では、「芭蕉の道・案内人協議会」、「仙台湾岸運河群の歴史と記憶を伝える協議会」との協働など。

(前ページより続く)

➤その他、広報活動としてイベント情報の収集・発信やホームページの拡充・更新、研究開発として街道マップの作成及び利用促進などを引き続き実施。

続いて、日下さおり会計から収支予算(案)の説明がありました。

⇒審議の結果、異議はなく、承認されました。

以上、議案の審議が終了し、定期総会が閉会されました。

《 記 念 講 演 》

総会終了後に記念講演会が開催されました。(参加者36名：一般参加者6名含む)

演題 「地形に隠された災害要因の解明～古地図から歴史地形を読む～」

講師：蝦名裕一氏(東北大学災害科学国際研究所 准教授)

要旨：東日本大震災の津波により、若林区荒浜や岩沼市下之郷地域で現われた新たな川の流れが、先人達が描いた絵図と同じ場所であること(下図)、宮古市中心部のこれまでの開発による地形の変遷と東日本大震災の津波被害範囲が関係していること、2016年台風10号の岩手県岩泉町乙茂地区の小本川氾濫では、明治初期の絵図面に小本川の支流が街道沿いに流れていた事が書かれており、その範囲に大きな被害があったこと、秋田県にかほ市象潟で1804年の地震による地殻変動による陸地化(現在は水田に小島が残る)した際の関地区の家屋倒壊や復旧の状況が、江戸時代の文書や村絵図、地震後に書かれた絵地図などにより把握できることなどが紹介されました。

こうしたことから、開発によって埋め立てられた地形や河川の流れを変えた場所などは災害リスクが高いことから、古地図から地形を読むことが有効であることが分かってきたとのことです。



蝦名講師

津波によって現れる歴史的地形



街道談義

記念講演会後に講師を囲んで街道談義が開催され、白鳥会長、高橋副会長、蝦名講師、事務局員など13名が参加しました。

会費の納入のお願い

○既に会費納入いただきました会員の皆様には、紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

○なお、当年度の会費は引き続き随時受け付けておりますので、納入がお済みでない方は、右記口座までお振込みいただくか、事前に連絡の上、みやぎ街道交流会事務局までお持ちください。

【会費の振込み先】 ※振込手数料はご負担願います。
仙台銀行 上杉支店 普通口座 2523091
名義:みやぎ街道交流会 会計 馬場恭子

【事務局】 〒980-0802 仙台市青葉区二日町13-17
TEL 080-3322-1966 FAX 022-262-0379

【編集後記】

○記念講演で紹介された災害や地域は以前に仕事で関わっていたことやも興味を持って聞きました。この様な見方もあるのか、これからの災害対策の参考にできないか。また、頻発する災害への心構えを忘れない事が大切だと思いました。

○猛暑真っ盛りです。オリンピック、高校野球、MLBの大谷などを涼しい部屋で観戦するも良いと思います。体調に気を付けましょう。(み)